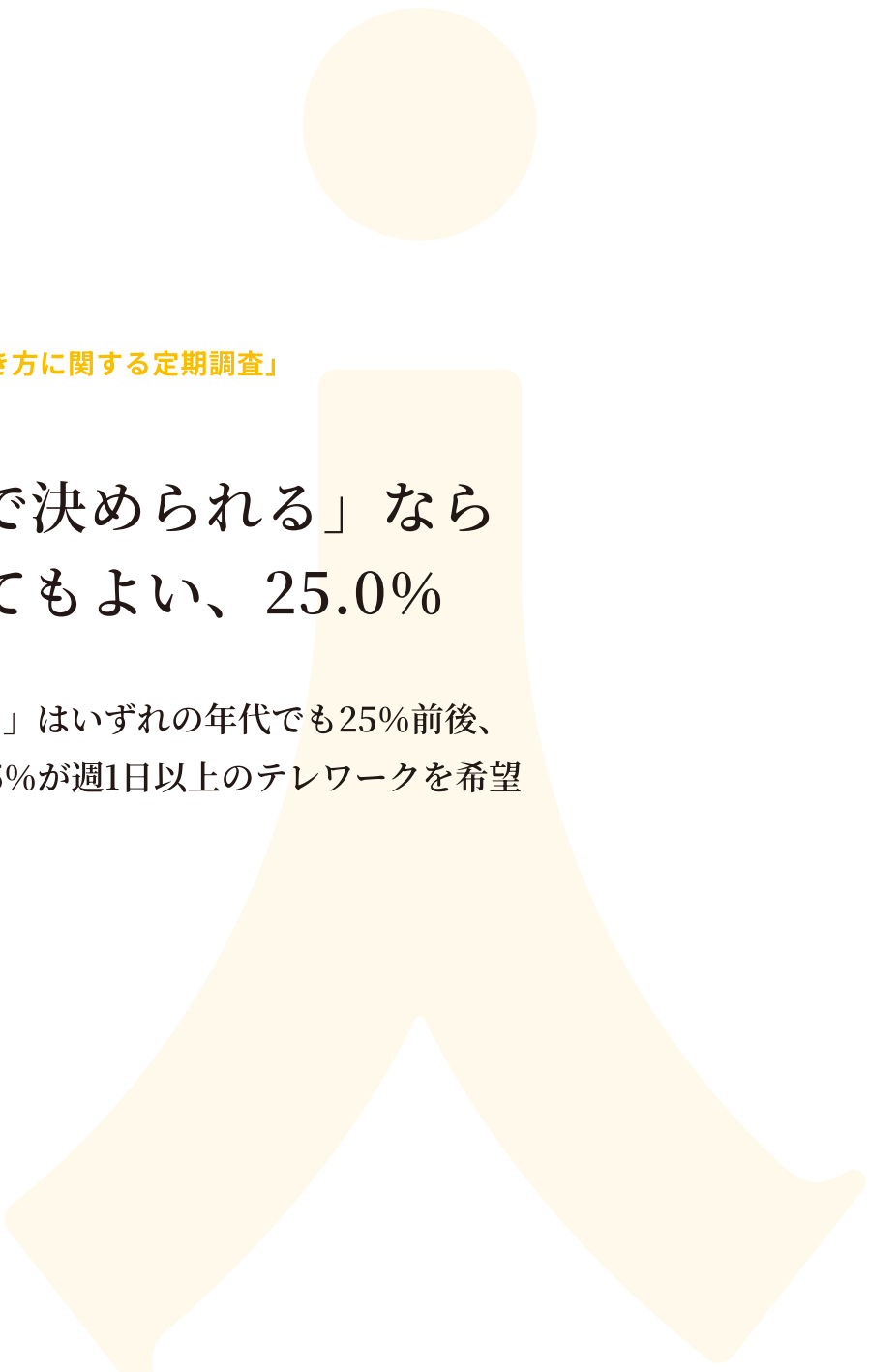




テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」

2026年9月調査結果

「出社頻度を自分で決められる」なら 多少の不満があってもよい、25.0%

「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後、
現在フル出社で働く層でも62.5%が週1日以上のテレワークを希望

2026年9月

テレワーク・リモートワーク総合研究所

株式会社LASSIC



調査結果の要点

POINT — サマリー

- 2026年10月からの下期の目標や役割についての気持ちを単一回答で尋ねたところ、「納得して取り組んでいる」が24.7%、「目標より働き方を改善したい」が21.0%、「目標達成より転職を考えている」が7.1%であった。年代別では、「目標達成より転職を考えている」は20代12.6%が最も高い。
- 転職・求人を検討するときのテレワーク条件では、「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」が24.2%で最も多かった（前月比-2.5ポイント）。この項目は年代別では30代32.9%が最も高い。「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」は20代で27.5%あり、同じ年代の「テレワークより給与・待遇を優先する」20.4%を上回った。
- 週1日以上テレワークを希望する割合は82.0%（前月比+1.8ポイント）、勤め先が週1日以上テレワークを認めている割合は72.7%（同+2.1ポイント）で、希望のほうは9.3ポイント上回った。現在フル出社で働く層（n=384）でも週1日以上テレワークを希望する割合は62.5%で、同じ層で勤め先が週1日以上テレワークを認めている割合37.5%を25.0ポイント上回った。
- テレワークを希望する理由を「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計でみると、「雨や台風の日通勤を避けたい」81.0%が最も高く、現在フル出社で働く層でも79.4%であった。
- 「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件では、「給与が相場より高い」37.4%、「人間関係のストレスがない」32.1%に続いて、「出社頻度を自分で決められる」25.0%、「通勤がない、または短い」24.9%、「フルリモートで働ける」22.8%であった。「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後であった。



調査結果の要点（続き）

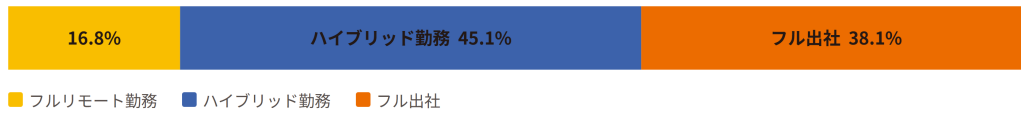
調査概要

項目	内容
調査名	テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」
実施時期	2026年9月2日～9月3日
調査方法	インターネット調査
調査対象	全国の20～65歳で、テレワーク／リモートワークを経験したことがあるワーキングパーソン男女
有効回答数	n=1,007
前回調査	2026年8月調査（n=1,011、同一設計）。本文・図表の前月比は本調査との差である。
回答者の内訳	男女別は男性517人・女性490人。年代は20代167人・30代207人・40代251人・50代271人・60代111人。出社形態グループはフルリモート勤務169人・ハイブリッド勤務454人・フル出社384人。
構成比注記	構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。
前月比について	文中の「前月比」は2026年8月調査（同一設計）との比較であり、図表タイトルに【定点調査】と記した設問に付記している。
クロス集計について	クロス集計は各層のn数で算出した。年代別のn数は20代167人・30代207人・40代251人・50代271人・60代111人である。
出社形態グループについて	出社形態グループ（フルリモート勤務／ハイブリッド勤務／フル出社）は、調査のスクリーニング設問で尋ねた現在の出社形態の回答に基づく区分である。ハイブリッド勤務は週1日出社から週4日出社までを合わせたもの。
設問文の変更について	テレワークの希望日数と勤め先で認められている日数を尋ねる設問は、2026年9月調査で設問文を一部変更した（項目・選択肢は不変）。この設問の前月比は参考として付記している。



調査結果の要点（続き）

回答者の出勤形態





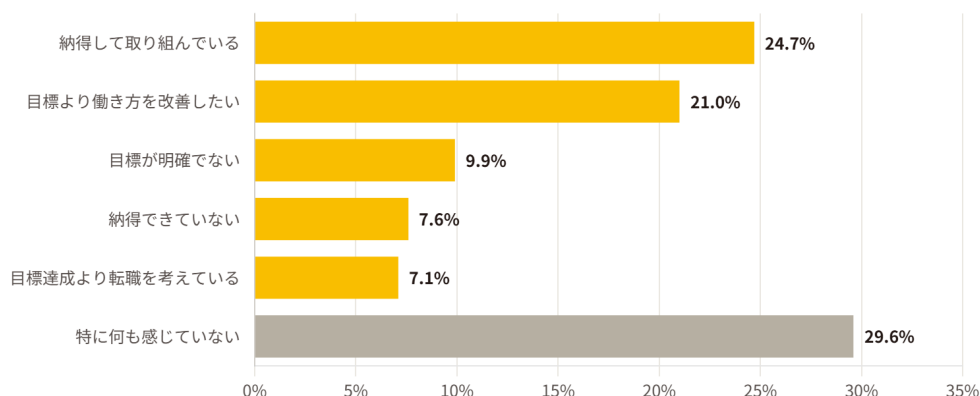
10月からの下期の目標や役割についての気持ちは「納得して取り組んでいる」24.7%、「目標より働き方を改善したい」21.0%。「目標達成より転職を考えている」は20代12.6%が最も高い

設問：2026年10月からの下期の目標や役割について、いまのあなたの気持ちに最も近いものを教えてください。（ひとつだけ）納得して取り組んでいる／納得できていない／目標より働き方を改善したい／目標達成より転職を考えている／目標が明確でない／特に何も感じていない

テレワーク経験のある全国の20～65歳の就労者1,007人を対象に、2026年10月からの下期の目標や役割について、いまの気持ちに最も近いものを単一回答で尋ねた。なお本調査は2026年9月2日～3日に実施しており、下期が始まる前の時点での回答である。

下期の目標や役割についての気持ちをみると、「特に何も感じていない」が29.6%で、全6項目のなかで最も多い（図表1）。この回答を除くと、「納得して取り組んでいる」が24.7%、次いで「目標より働き方を改善したい」が21.0%であった。「目標が明確でない」9.9%、「納得できていない」7.6%、「目標達成より転職を考えている」7.1%が続いた。

図表1 2026年10月からの下期の目標や役割について、いまの気持ち



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n=1,007（単一回答・全6項目）。灰色の項目は、下期の目標や役割について気持ちを挙げなかった回答

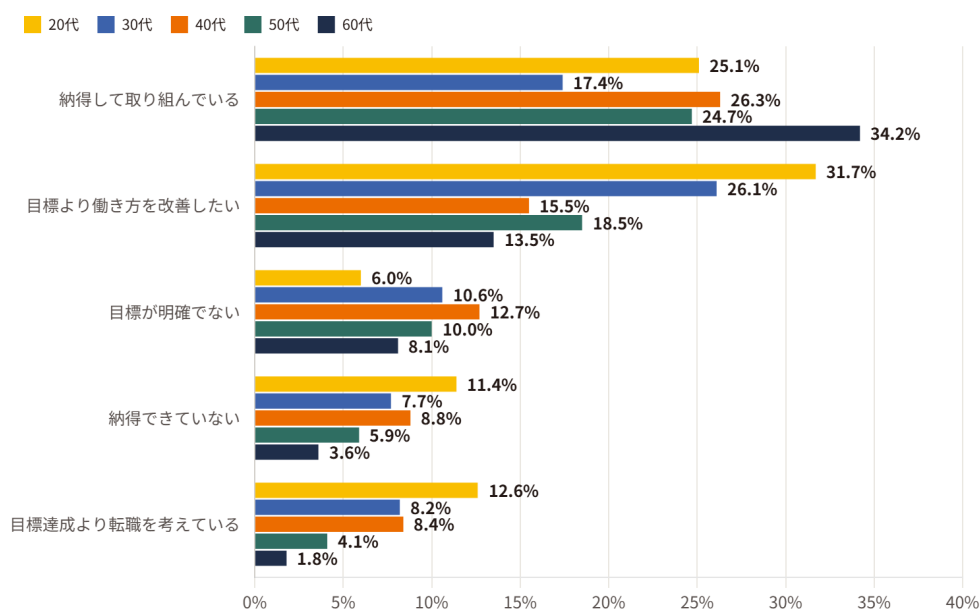
テレリモ総研 by LASSIC



10月からの下期の目標や役割についての気持ちは「納得して取り組んでいる」24.7%、「目標より働き方を改善したい」21.0%。「目標達成より転職を考えている」は20代12.6%が最も高い（続き）

年代別に、「特に何も感じていない」を除く5項目をみる（図表2）。20代と30代では「目標より働き方を改善したい」が最も高く、20代31.7%、30代26.1%であった。40代以上では「納得して取り組んでいる」が最も高く、40代26.3%、50代24.7%、60代34.2%である。「目標達成より転職を考えている」は20代12.6%が最も高く、30代8.2%、40代8.4%、50代4.1%、60代1.8%であった。「納得できていない」は20代11.4%、30代7.7%、40代8.8%、50代5.9%、60代3.6%、「目標が明確でない」は20代6.0%、30代10.6%、40代12.7%、50代10.0%、60代8.1%である。

図表2 下期の目標や役割についての気持ち（年代別）



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n数：20代n=167/30代n=207/40代n=251/50代n=271/60代n=111（単一回答）。「特に何も感じていない」（全体29.6%。下期の目標や役割について気持ちを挙げなかった回答）を除く5項目。全体の値は図表1

テレリモ総研 by LASSIC

POINT

下期の目標や役割について「納得して取り組んでいる」は24.7%、「目標より働き方を改善したい」は21.0%、「目標達成より転職を考えている」は7.1%である。「目標達成より転職を考えている」は20代12.6%が最も高い。



転職・求人を検討するときのテレワーク条件のうち、最も多いのは「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」 24.2%、次いで「テレワーク制度がない会社は応募候補から外す」21.3%

設問：もし転職や求人を考えるとき、テレワークに関する条件をどう考えますか。あてはまるものをすべて教えてください。（いくつでも）テレワーク制度がない会社は応募候補から外す／テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する／複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める／フルリモート可能な会社を最優先する／出社頻度を自分で選べることを重視する／テレワークより給与・待遇を優先する／テレワークより仕事内容を優先する／テレワークできないなら転職を考える／テレワークの有無は転職判断に影響しない／今は転職を考えていない

もし転職や求人を考えるときにテレワークに関する条件をどう考えるかを、複数回答で尋ねた。

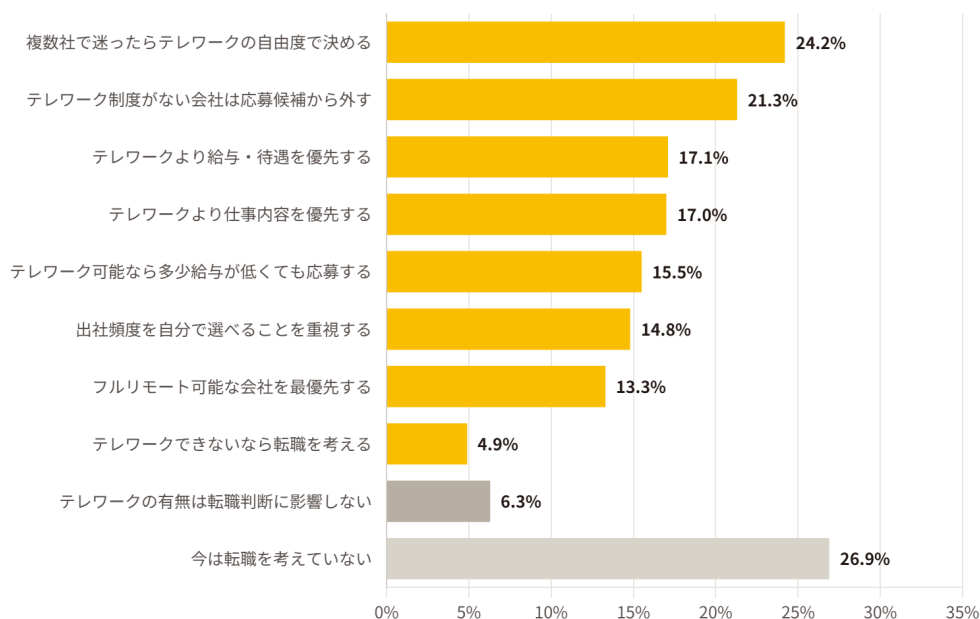
転職・求人を検討するときのテレワークに関する条件をみると、「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」が最も多く24.2%であった。これは、2026年8月調査比（以下、前月比）で-2.5ポイントであった（図表3）。次いで「テレワーク制度がない会社は応募候補から外す」21.3%（同-1.2ポイント）、「テレワークより給与・待遇を優先する」17.1%（同+0.3ポイント）、「テレワークより仕事内容を優先する」17.0%（同+1.6ポイント）が続いた。「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」は15.5%（同+1.4ポイント）、「出社頻度を自分で選べることを重視する」は14.8%（同-3.5ポイント）であった。「フルリモート可能な会社を最優先する」は13.3%（同-0.8ポイント）、「テレワークできないなら転職を考える」は4.9%（同-2.0ポイント）であった。複数回答のため、選択率の合計は100%を超える。

「テレワークの有無は転職判断に影響しない」は6.3%（前月比-0.9ポイント）であった。「今は転職を考えていない」は26.9%（同+1.5ポイント）である。



転職・求人を検討するときのテレワーク条件のうち、最も多いのは「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」24.2%、次いで「テレワーク制度がない会社は応募候補から外す」21.3%（続き）

図表3 【定点調査】転職・求人を検討するときのテレワークに関する条件



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n=1,007（複数回答）。複数回答のため、選択率の合計は100%を超える。灰色の「テレワークの有無は転職判断に影響しない」は、転職判断にテレワーク条件を用いない回答。最下段の薄い灰色の「今は転職を考えていない」は、転職自体を考えていない回答

テレリモ総研 by LASSIC

POINT

転職・求人を検討するときのテレワーク条件として最も多いのは「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」24.2%、次いで「テレワーク制度がない会社は応募候補から外す」21.3%である。「テレワークの有無は転職判断に影響しない」は6.3%（前月比-0.9ポイント）であった。



20代の最多は「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」27.5%、30代は「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」32.9%が最も高い

年代別に、全10項目のうち「テレワークの有無は転職判断に影響しない」「今は転職を考えていない」を除く8項目をみる（図表4）。各年代で最も高い項目は、20代が「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」27.5%、30代・40代・50代が「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」（30代32.9%、40代25.1%、50代20.7%）、60代が「テレワークより仕事内容を優先する」17.1%であった。

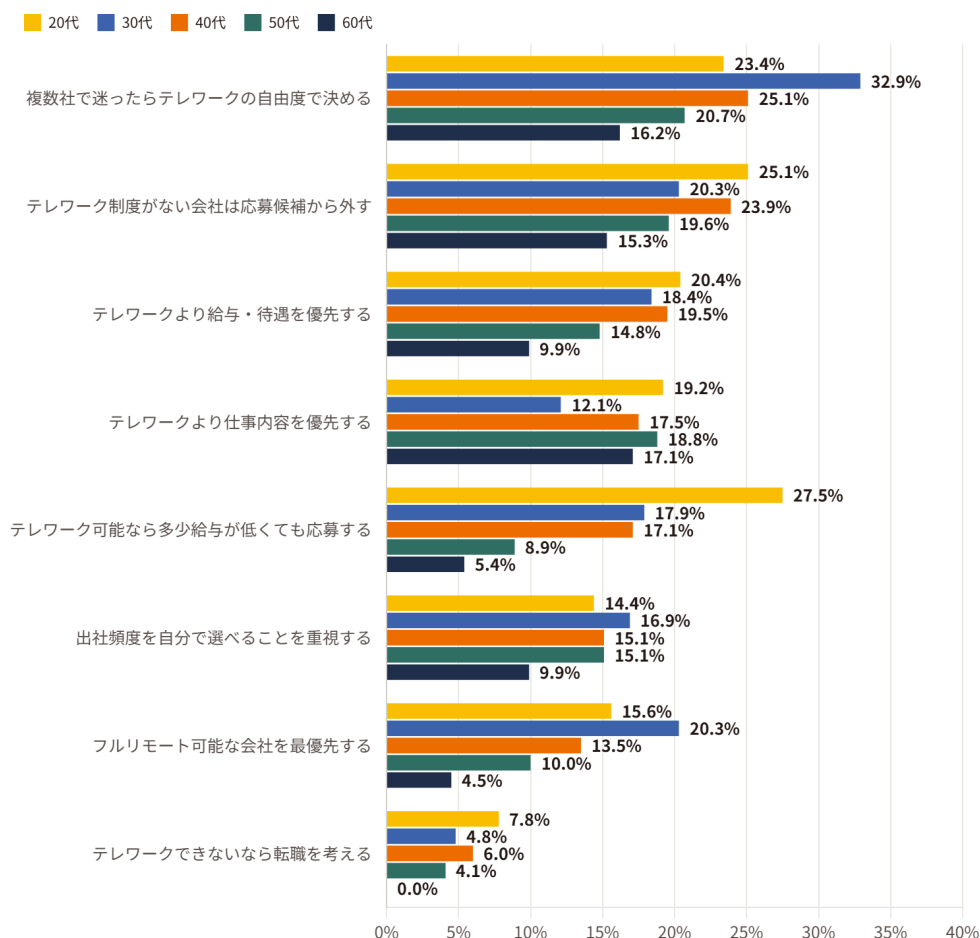
年代による差が最も大きいのは「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」で、最も高い20代27.5%と最も低い60代5.4%の差は22.1ポイントであった。この項目は30代17.9%、40代17.1%、50代8.9%で、20～40代ではいずれも17%を超えている。20代では、この項目が同じ設問の「テレワークより給与・待遇を優先する」20.4%を上回った。

「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」は30代32.9%が最も高く、40代25.1%、20代23.4%、50代20.7%と続いた。20代から50代までのいずれの年代でも2割を超えている。60代は16.2%であった。「テレワーク制度がない会社は応募候補から外す」は20代25.1%、40代23.9%、30代20.3%で、20～40代のいずれの年代でも2割を超えた。50代は19.6%、60代は15.3%であった。



20代の最多は「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」27.5%、30代は「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」32.9%が最も高い（続き）

図表4 【定点調査】転職・求人を検討するときのテレワークに関する条件（年代別）



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n数：20代n=167/30代n=207/40代n=251/50代n=271/60代n=111（複数回答）。複数回答のため、選択率の合計は100%を超える。「テレワークの有無は転職判断に影響しない」「今は転職を考えていない」を除く8項目（全体の値と前月比は図表3）

テレリモ総研 by LASSIC

POINT

20代の最多は「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」27.5%、30代から50代までは「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」が最も高い。年代による差が最も大きいのは「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」で、最も高い20代27.5%と最も低い60代5.4%の差は22.1ポイントである。



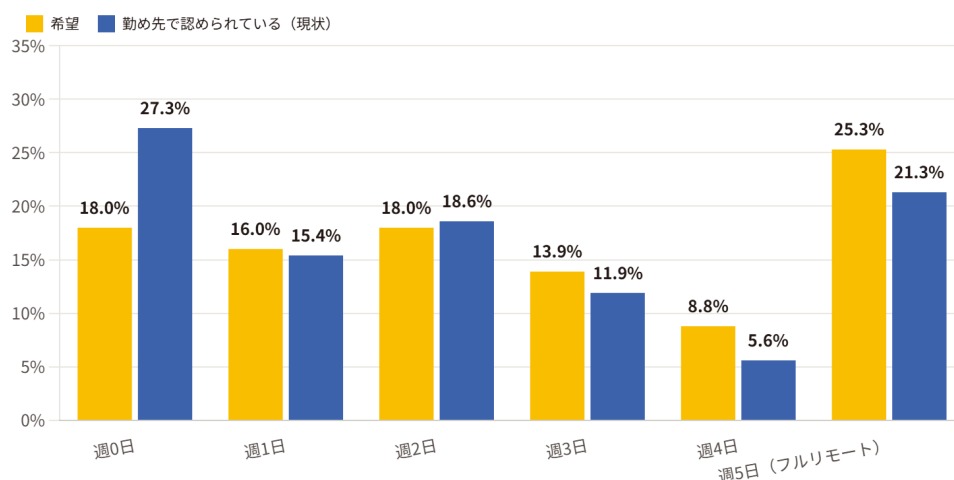
週1日以上のテレワークを希望する割合は82.0%、現在フル出社で働く層でも62.5%、同じ層で勤め先が認めているのは37.5%

設問：来月のテレワークについて、あなたの希望と実際の状況を教えてください。（項目ごとにひとつだけ）【項目】あなたが希望するテレワーク日数／勤め先で認められているテレワーク日数 【選択肢】週0日／週1日／週2日／週3日／週4日／週5日（フルリモート）

テレワークの希望日数と勤め先で認められている日数（以下「現状」）をみると、週1以上のテレワークを希望する割合は82.0%（826人）であった（図表5）。一方、勤め先が週1以上のテレワークを認めている割合は72.7%（732人）で、希望のほうが9.3ポイント上回った。前月比は希望が+1.8ポイント、現状が+2.1ポイントである。希望と現状はそれぞれ独立した構成比であり、個人単位で突き合わせたものではない。なおこの設問は今回調査から設問文を一部変更しており（項目・選択肢は不変）、前月比は参考として付記している。

週5日（フルリモート）では、希望25.3%（前月比+1.7ポイント）に対し、認められている割合は21.3%（同+0.1ポイント）であった。

図表5 【定点調査】テレワークの希望日数と、勤め先で認められている日数（現状）



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n=1,007（単一回答）。希望と現状はそれぞれ独立した構成比であり、個人単位で突き合わせたものではない。2026年9月調査で設問文を一部変更した（項目・選択肢は不変）。前月比は参考として本文に記載

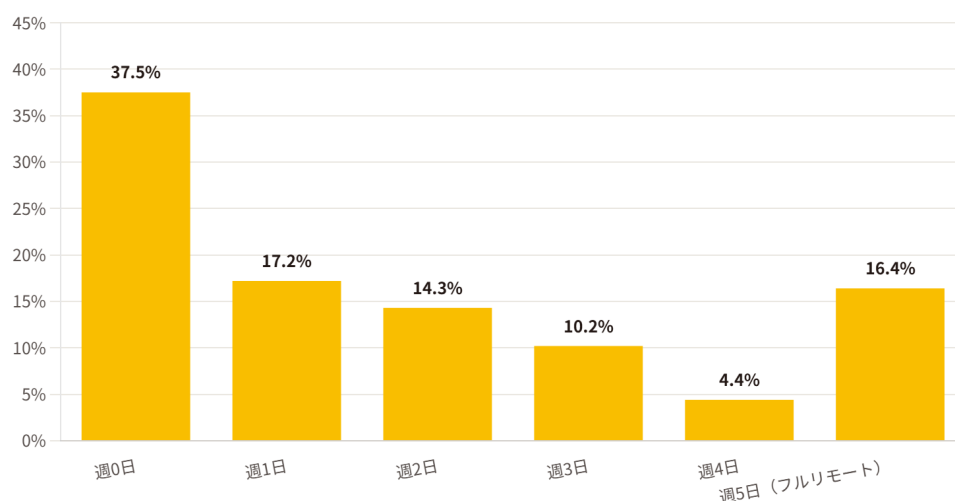
テレリモ総研 by LASSIC



週1日以上のテレワークを希望する割合は82.0%、現在フル出社で働く層でも62.5%、同じ層で勤め先が認めているのは37.5%（続き）

現在フル出社で働く層（n=384。回答者が選んだ出社形態をもとにした区分）に絞ると、週1日以上テレワークを希望する割合は62.5%（240人）と6割を超えた。その内訳は週1日17.2%、週2日14.3%、週3日10.2%、週4日4.4%、週5日（フルリモート）16.4%である（図表6）。希望しない（週0日）は37.5%であった。同じ層で勤め先が週1日以上テレワークを認めているのは37.5%（144人）で、希望のほうは25.0ポイント上回った。

図表6 現在フル出社で働く層が希望するテレワーク日数の分布



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） 現在フル出社で働く層 n=384（単一回答）。週1日以上合計は62.5%、希望しない（週0日）は37.5%

テレリモ総研 by LASSIC

POINT

週1日以上テレワークを希望する割合は82.0%、勤め先が週1日以上テレワークを認めている割合は72.7%で、希望のほうは9.3ポイント上回る。現在フル出社で働く層でも週1日以上テレワークを希望する割合は62.5%あり、同じ層で勤め先が週1日以上テレワークを認めている割合37.5%を25.0ポイント上回る。



テレワークを希望する理由の最多は「雨や台風の日通勤を避けたい」81.0%、現在フル出社で働く層でも79.4%

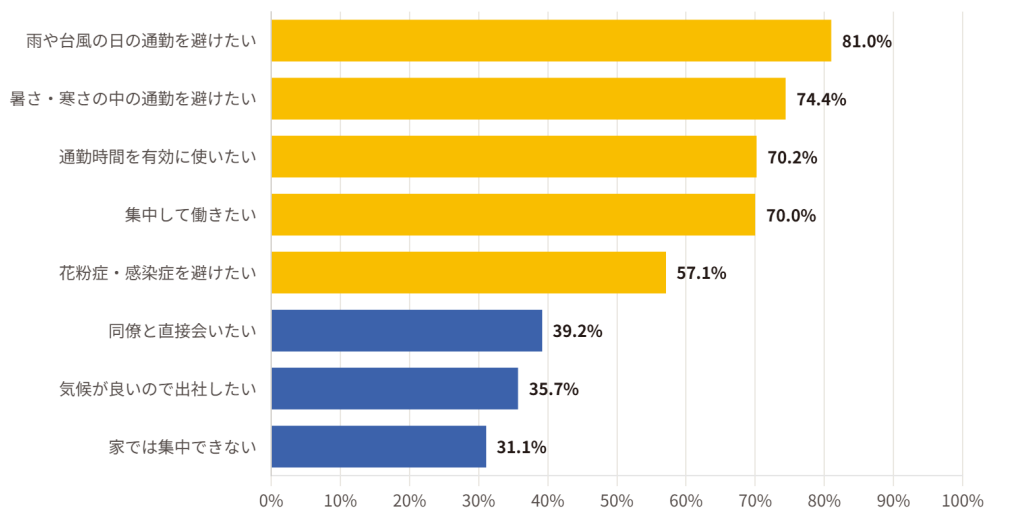
設問：あなたが希望する働き方について、次の理由がどれくらい当てはまるか教えてください。（項目ごとにひとつだけ）

【項目】暑さ・寒さの中の通勤を避けたい／雨や台風の日通勤を避けたい／花粉症・感染症を避けたい／通勤時間を有効に使いたい／集中して働きたい／同僚と直接会いたい／気候が良いので出社したい／家では集中できない 【選択肢】とても当てはまる／やや当てはまる／どちらともいえない／あまり当てはまらない／まったく当てはまらない

テレワーク／出社を希望する理由を、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた割合（以下「当てはまる」の合計）でみた。最も多いのは「雨や台風の日通勤を避けたい」81.0%（前月比+0.8ポイント）であった（図表7）。「暑さ・寒さの中の通勤を避けたい」74.4%（同-2.8ポイント）がこれに続いた。「通勤時間を有効に使いたい」70.2%（同-1.9ポイント）、「集中して働きたい」70.0%（同-1.9ポイント）、「花粉症・感染症を避けたい」57.1%（同±0.0ポイント）と続き、テレワークを希望する理由が出社を希望する理由をいずれも上回った。

出社を希望する理由では、「同僚と直接会いたい」39.2%（前月比-1.4ポイント）が最も高かった。「気候が良いので出社したい」35.7%（同-1.7ポイント）、「家では集中できない」31.1%（同-0.9ポイント）が続いた。

図表7 【定点調査】テレワーク／出社を希望する理由で「当てはまる」と答えた割合（全体）



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n=1,007。「とても当てはまる」+「やや当てはまる」の合計。青の3項目は、出社を希望する理由

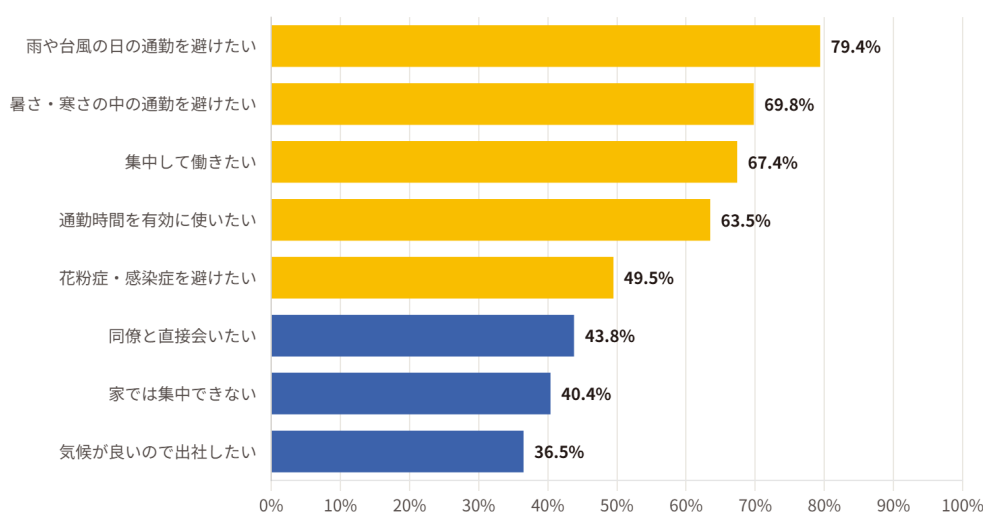
テレリモ総研 by LASSIC



テレワークを希望する理由の最多は「雨や台風の日通勤を避けたい」81.0%、現在フル出社で働く層でも79.4%（続き）

現在フル出社で働く層（n=384）でも、「雨や台風の日通勤を避けたい」は「当てはまる」の合計で最多の79.4%、「暑さ・寒さの中の通勤を避けたい」は69.8%であった（図表8）。「集中して働きたい」67.4%、「通勤時間を有効に使いたい」63.5%、「花粉症・感染症を避けたい」49.5%が続いた。出社を希望する理由では「同僚と直接会いたい」43.8%、「家では集中できない」40.4%、「気候が良いので出社したい」36.5%であった。

図表8 【定点調査】テレワーク／出社を希望する理由で「当てはまる」と答えた割合（現在フル出社で働く層）



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年）現在フル出社で働く層 n=384。「とても当てはまる」＋「やや当てはまる」の合計。青の3項目は、出社を希望する理由

テレリモ総研 by LASSIC

POINT

「当てはまる」の合計でみると、「雨や台風の日通勤を避けたい」81.0%が最も高く、「暑さ・寒さの中の通勤を避けたい」74.4%が続く。現在フル出社で働く層でも、「雨や台風の日通勤を避けたい」は79.4%である。



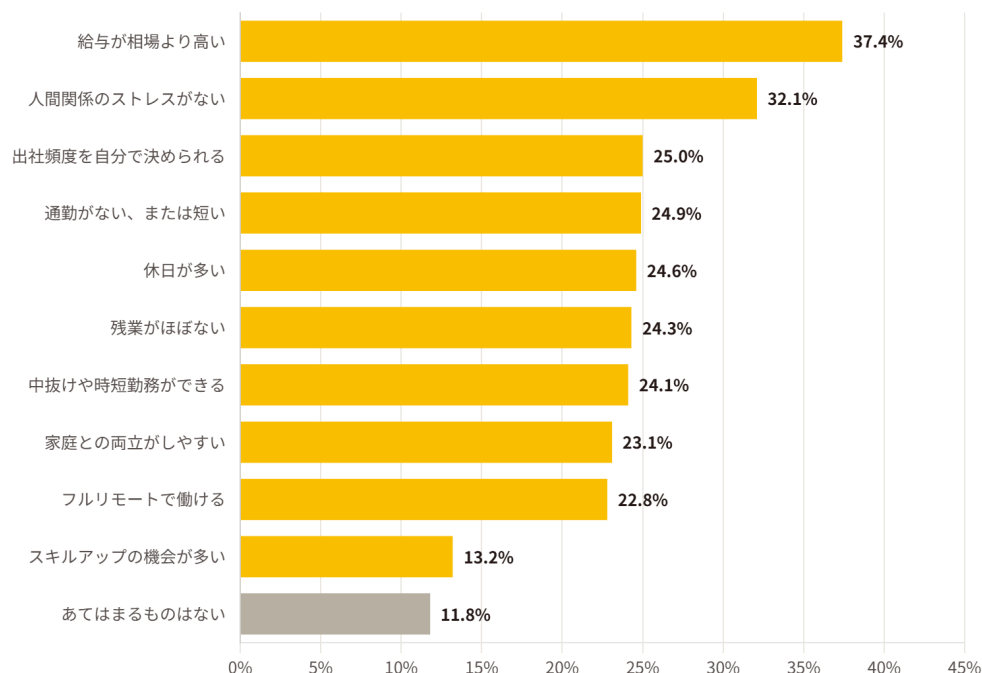
「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件のうち、最も多いのは「給与が相場より高い」37.4%、3位「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後

設問：次のうち、「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件をすべて教えてください。（いくつでも）フルリモートで働ける／出社頻度を自分で決められる／中抜けや時短勤務ができる／通勤がない、または短い／家庭との両立がしやすい／給与が相場より高い／残業がほぼない／休日が多い／スキルアップの機会が多い／人間関係のストレスがない／あてはまるものはない

「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件を、複数回答で尋ねた。

最も多いのは「給与が相場より高い」37.4%で、次いで「人間関係のストレスがない」32.1%であった（図表9）。「出社頻度を自分で決められる」25.0%、「通勤がない、または短い」24.9%、「休日が多い」24.6%、「残業がほぼない」24.3%、「中抜けや時短勤務ができる」24.1%、「家庭との両立がしやすい」23.1%、「フルリモートで働ける」22.8%の7項目は、いずれも22～25%と、近い割合であった。「スキルアップの機会が多い」は13.2%、「あてはまるものはない」は11.8%であった。複数回答のため、選択率の合計は100%を超える。

図表9 「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n=1,007（複数回答）。複数回答のため、選択率の合計は100%を超える。灰色の項目は、条件を挙げなかった回答

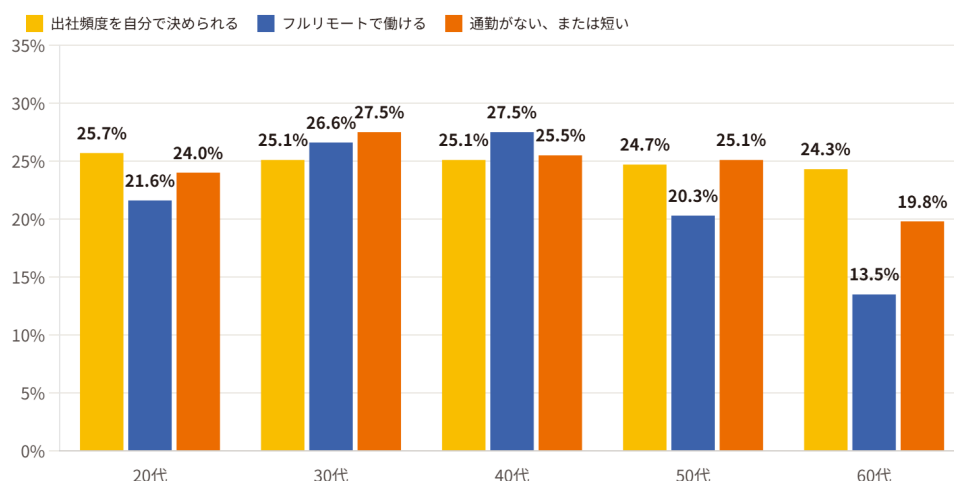
テレリモ総研 by LASSIC



「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件のうち、最も多いのは「給与が相場より高い」37.4%、3位「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後（続き）

年代別には、テレワークに関する3項目「出社頻度を自分で決められる」「フルリモートで働ける」「通勤がない、または短い」をみる。「出社頻度を自分で決められる」は20代25.7%、30代25.1%、40代25.1%、50代24.7%、60代24.3%で、いずれの年代でも24.3～25.7%であった（図表10）。「フルリモートで働ける」は20代21.6%、30代26.6%、40代27.5%、50代20.3%、60代13.5%で、30代と40代が高い。「通勤がない、または短い」は20代24.0%、30代27.5%、40代25.5%、50代25.1%、60代19.8%である。

図表10 「ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件（年代別・3項目）



（出所）テレリモ総研「テレワークと採用・働き方に関する定期調査」（2026年） n数：20代n=167/30代n=207/40代n=251/50代n=271/60代n=111（複数回答）。テレワークに関する3項目の年代別選択率

テレリモ総研 by LASSIC

POINT

「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件は、「給与が相場より高い」37.4%、「人間関係のストレスがない」32.1%に続いて「出社頻度を自分で決められる」25.0%、「通勤がない、または短い」24.9%、「フルリモートで働ける」22.8%である。「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後で、年代による差がほとんどない。



「ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件で「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後、現在フル出社で働く層でも週1日以上テレワークを希望する割合は62.5%

2026年10月からの下期の目標や役割について、「納得して取り組んでいる」は24.7%、「目標より働き方を改善したい」は21.0%、「目標達成より転職を考えている」は7.1%であった。「目標達成より転職を考えている」は20代12.6%が最も高かった。

転職・求人を検討するときのテレワーク条件では、「複数社で迷ったらテレワークの自由度で決める」が24.2%で最も多く、年代別では30代32.9%が最も高かった。「テレワーク可能なら多少給与が低くても応募する」は20代27.5%で、同じ年代の「テレワークより給与・待遇を優先する」20.4%を上回った。「テレワークの有無は転職判断に影響しない」は6.3%であった。

テレワークの希望日数と、勤め先で認められている日数（現状）にも差がみられた。週1日以上テレワークを希望する割合は82.0%である一方、勤め先が週1日以上テレワークを認めている割合は72.7%で、希望のほうに9.3ポイント上回った。現在フル出社で働く層では、週1日以上テレワークを希望する割合が62.5%、同じ層で勤め先が週1日以上テレワークを認めている割合が37.5%で、希望のほうに25.0ポイント上回った。

テレワークを希望する理由を「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計でみると、「雨や台風の日の通勤を避けたい」が81.0%で最も高かった。現在フル出社で働く層でも最多で79.4%であった。

「これがあるなら、ほかに多少の不満があってもよい」と思える条件では、「給与が相場より高い」37.4%、「人間関係のストレスがない」32.1%に続いて「出社頻度を自分で決められる」25.0%、「通勤がない、または短い」24.9%、「フルリモートで働ける」22.8%であった。「出社頻度を自分で決められる」はいずれの年代でも25%前後で、年代による差がほとんどなかった。



テレリモ総研について

テレリモ総研では、人々が場所によって仕事内容や職種、勤務条件を左右されることなく活躍できる世界を実現すべく、テレワーク・リモートワークが働き方の選択肢の一つとして一般化することを目指し、多様な働き方に注目した情報をお届けしてまいります。

テレリモ総研 公式サイト：<https://teleremo.lassic.co.jp>

編集責任者・テレリモ総研所長

竹下 颯飛（たけした・はやと） 株式会社LASSIC テレワーク・リモートワーク総合研究所（テレリモ総研）所長。2020年に新卒で株式会社LASSICに入社し、ITエンジニアとしてシステム開発に従事したのち、調査・分析業務へ。現在はテレリモ総研の所長として、毎月の定点調査の設計から集計・分析、採用動向レポートの編集責任者として調査設計と発表内容の最終確認を担当。京都大学経済学部卒、統計検定準1級。北海道在住、フルリモート勤務。

プロフィール：<https://teleremo.lassic.co.jp/profile/takeshita/>

記事の著作権について

本記事は、自由に転載いただくことができます。本記事の著作権は株式会社LASSICに帰属しますが、以下リンク先の利用条件を満たす方には利用権を許諾します。

転載・引用についてのご案内はこちら <https://teleremo.lassic.co.jp/copyright/>

株式会社LASSICについて

LASSICは2006年に鳥取県で創業し、『リモート社会をリードし、ボーダレスワークの実現によって社会に貢献する。』をビジョンに、「採用（Remogu・リラシク）」「DX」分野においてボーダレスを促進させる仕組みづくりに邁進し、事業として社会貢献活動をしている企業です。

■ 会社案内 <https://www.lassic.co.jp>

■ フリーランスITエンジニア向けリモートワーク専門JOBエージェント Remogu（リモグ）
<https://remogu.jp>

■ ITエンジニア向けリモートワーク専門転職エージェント リラシク <https://relasic.jp>

お問い合わせ

株式会社LASSIC Remogu事業部 お問い合わせフォーム <https://lassic.co.jp/contact/>